

## 2022 年度日本海洋学会秋季評議員会議事録

日時:2022 年 9 月 6 日(火)18:00~19:30

場所:Zoom を利用したオンライン開催

出席者:神田会長、伊藤副会長、相木、青木、安藤、石坂、市川、上野、植原、梅澤、江淵、大林、岡(英)、小川、乙坂、小埜、小畑、郭、川合(義)、河宮、北出、轡田、久保川、小松、根田、齊藤、須賀、鈴木、宗林、高橋、張、東塚、中村、西岡、林、原田、日比谷、広瀬、本多、升本、道田、森本、安中 各評議員(43 名)

岩本編集委員長、帰山広報委員長、多田研究会会長、田所研究会会長、中嶋選考委員長、中野(俊)西南支部支部長、濱崎選考委員長、福田研究会長、吉田編集委員長、岡(顕)幹事、土井幹事、中野(英)幹事、西部幹事、野口幹事、三角幹事、毎日学術フォーラム(平坂)

委任状:磯辺、植松、大島、川合(美)、武田、羽角、見延、安田(一)、安田(珠)、吉江、吉川 各評議員(11 名)

三角集会担当幹事より、出席者 41 名、委任状 11 通で評議員会細則第 3 条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

### 議題

#### 1. 会長挨拶(神田会長)

評議員会開催に先立ち、神田会長より挨拶があった。

秋季大会が 9 月 3 日(土)のシンポジウムを皮切りに、名古屋大学東山キャンパスを会場として開催されていることが述べられた。対面とオンラインのハイブリット開催となり、感染対策も含め多大な努力の下に開催されていることが述べられ、石坂大会実行委員長を始め、大会実行委員会を組織する愛知県と三重県の会員に感謝の意が示された。

4 月に Timothy R. Parsons 名誉会員、5 月に鳥羽良明名誉会員、7 月に柳哲雄名誉会員がご逝去されたことが述べられ、哀悼の意が示された。また、秋季大会期間中の 9 月 5 日に青山道夫会員が急逝されたことが述べられ哀悼の意が示された。

#### 2. 大会実行委員長挨拶(石坂大会実行委員長)

秋季大会の大会実行委員長である石坂会員より挨拶があった。

ハイブリッド開催となり通常開催の倍近い労力がかかったが、相木事務局長をはじめとして、名古屋大学と三重大学の会員の協力により開催にいたった事が述べられ、感謝の意が示された。

登録参加者は 449 名、発表件数は 235 件であり、近年の秋季大会と比べ見劣りしない参加者と発表があったことが述べられた。毎日 200 名程度の人が大会会場で参加していたことが述べられた。9 月 12 日には、オンラインポスター発表と懇親会を開催予定であり、

様々な企画が用意されていること述べられた。

### 3. 報告事項

#### 1) 会務報告

##### 庶務(乙坂幹事)

2022年4月から2022年7月の会員の異動状況について報告された。

2022年4月から2022年9月のシンポジウム等の開催・共催等について報告された。

##### 編集

#### ① JO(江淵編集委員長)

JO Vol. 76(1)から Vol. 78(5)までの発行状況、2016年から2022年8月までの論文の投稿・受理状況について報告された。特別セクションの編集状況について報告された。

2021年のJOのImpact Factorが2.000だったこと、Open Access費用が決定したことが報告された。

JOSJ時代の論文(1942-1991, vol. 1-47)について、学会ホームページのバックナンバーのリンクをテラ出版からJ-STAGEに変更されたことが報告された。

#### ② 海の研究(吉田編集委員長)

前回評議員会以降の発行状況と投稿論文の状況、J-STAGEへの登録状況について報告された。

投稿論文が少ないため、初学者に対するイントロダクションとなるようなレビュー論文の投稿を歓迎していることが述べられた。

#### ③ JOS ニュースレター(岩本編集委員長)

2022年度の発行状況、2022年度の今後の発行予定について報告された。

##### 研究発表(土井幹事)

2022年度の春季大会の実施について報告された。

2022年度の秋季大会が名古屋大学で開催されていることが報告され、開催セッション・シンポジウム等について報告された。

2023年度の春季大会がJpGU2023のなかで開催されることが報告された。

##### 賞選考

#### ① 学会賞・岡田賞・宇田賞選考委員会(江淵委員長)

選考状況について報告された。

② 日高論文賞・奨励論文賞選考委員会(濱崎委員長)

選考状況について報告された。

③ 環境科学賞選考委員会(中嶋委員長)

選考状況について報告された。

④ 吉田賞選考委員会(升本委員長)

選考状況について報告された。

選挙管理(中野幹事)

Web 選挙システムの概要について報告され、今後のスケジュールについて報告された。

広報委員会(帰山委員長)

出前授業の実施状況、学会ホームページ・サーバの管理状況、JpGU でのブース展示、秋季大会のプレスリリースの実施等について報告された。

海洋環境委員会(梅澤委員長)

2022 年度の「青い海助成」事業の一般提案型は応募がなかったことが報告された。緊急提案型については募集中であることが報告された。

2021 年度に終了した 3 件の課題の実施内容について報告された。

海洋観測ガイドライン編集委員会(乙坂委員長)

2022 年度は和文第 5 版の発行に向けて準備を進めていることが報告された。

西南支部(中野支部長)

12 月 8 日に「海洋学におけるデータサイエンス」というシンポジウムを鹿児島大学で開催予定であることが報告された。

海洋環境問題研究会(福田研究会会長)

9 月 3 日に海秋季大会で「洋上風力発電の導入に向けた環境影響と合意形成に向けた課題と現状に関する情報交換」というシンポジウムを開催したことが報告された。

沿岸海洋研究会(多田研究会会長)

沿岸海洋研究の発行状況が報告された。

9 月 3 日に「海洋プラスチック動態研究の最前線」というシンポジウムを開催したことが報告された。

9 月 3 日に 2022 年度速水論文賞の授与式を行い、森本会員に授与したことが報告された。

海洋生物学研究会(田所研究会会長)

10月以降の研究会の体制について検討状況が報告された。

教育問題研究会(須賀研究会会長)

2022年度前期の活動として、海のサイエンスカフェ、大学施設を利用した海洋教育の実践、女子中高生夏の学校2022への参加、JpGU教員免許状更新講習事業への講師派遣、海の出前授業、次期学習指導要領改訂に向けての活動等を行ったことが報告された。

2022年度後期の活動計画について報告された。

研究に関する将来構想ワーキンググループ(高橋幹事)

SDGsや国連海洋科学の10年のような出口側から見た「一般向けの研究将来構想」のとりまとめの方針についてオンラインで協議していることが報告された。

今後、WGメンバーで記事案を作成し、公表の準備を進めることが報告された。

## 2) 学界関連報告

学界動向(伊藤副会長)

学界関連の動向についてJOSニュースレター第3号に掲載される予定であることが報告された。

日本地球惑星科学連合(土井幹事)

JpGUの大気水圏科学セクションの役員が7月に交代となり、セクションプレジデントに東京大学の佐藤薫教授、バイスプレジデントに東京大学の沖大幹教授、東塚知己会員、セクション幹事に海洋研究開発機構の河谷芳雄主任研究員が選出されたことが報告された。

水産・海洋科学研究連絡協議会(伊藤副会長)

6月15日に第1回の連絡協議会が開催され、古谷議長、高橋幹事の留任が承認されたことが報告された。副議長の選出や各学協会の活動状況などの情報交換が行われたことが報告された。

日本学術会議水産分科会のシンポジウムの検討状況について報告された。

## 3. 審議事項

### 1) 2023年度秋季大会について(土井幹事)

2023年度秋季大会について提案され、京都大学で実施することが承認された。

大会実行委員長の宗林会員より挨拶があった。

### 2) 海洋生物学研究会 会長について(田所研究会会長)

海洋生物学研究会の新会長について、長崎大学の近藤能子会員が推薦され、承認された。

3) 教育問題研究会 会長について(須賀研究会会長)

教育問題研究会の新会長について、東京海洋大学の川合美千代会員が推薦され、承認された。

4) 法人化について(神田会長)

日本海洋学会を一般社団法人とすることについて提案され、承認された。

法人化に向けた骨子について説明があり、協議した。

5) 学生会員の会費の扱いについて(伊藤副会長)

学生会員の会費の扱いについて提案され、継続して協議することとなった。

6) 日本海洋学会学会賞・岡田賞・宇田賞細則の変更について(伊藤副会長)

日本海洋学会学会賞・岡田賞・宇田賞細則の変更について提案され、継続して協議することとなった。

7) 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募について(神田会長)

「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の応募について提案され、承認された。

以上